

令和6年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和6年(2024年)7月22日(月)
14:00~15:30

場所：：SPring 熊本花畑町 7FD

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶(松岡課長)
- 3 関係者紹介(自己紹介)
- 4 座長について
- 5 議事 協議 本市の小中一貫教育の取組について
 - (1) 座長より 小中一貫教育懇談会の目的について
 - (2) 事務局説明 本市の小中一貫教育について
 - (3) 意見交換

岡村座長	事務局からの説明に関して、質問があればお願いします。 昨年度の小中一貫教育に関する調査結果の中で、保護者に対して小中での連携が伝わっていないという事実ははっきり出ている。この部分についてもご意見を頂きたい。特に質問がなければ、それぞれの先生方からよさや課題などのご意見を頂きたい。
村上委員	吉松小と田底小の2つの小学校から植木北中学校へ進学する。令和3年度は小中一貫教育研究モデル校で、昨年度から小中一貫校となった。昨年度は平成30年に作られた0歳から15歳までのどんなこどもに育てたいかという幼小中連携カリキュラムをもとに、地域で育てる子どもをテーマにした「きらめきプラン」を見直して作り直した。令和6年度は学力向上を図るために、これまで作成していた人権、算数、総合的な学習の時間に加えて国語(語彙力をつける)の項目を入れ込んだ。 小学校同士の連携として、これまで実施していた5年生の集団宿泊教室を合同で、それ以外にも3年生の見学旅行も一緒のバスで行った。中1ギャップの解消や小規模校での保護者の経済的負担の軽減を考えると大きな学校行事も一緒にできないかと考えている。できる場所を探しながら取り組んでいる。校内研も合同で年2回行っている。引き渡し訓練も同じ日に行っている。合同行事をすることで、保護者や地域の方には少しずつ伝わっていくと考える。実践を通じて小中一貫教育の認知度が上がっていくだろう。
岡村座長	保護者の認知度は年々上がってきていると感じているか。
村上委員	プールの学校再編モデル校になっており、プールに行くときも同じ学年で行くこともあり、そういう所が小中一貫校としての取組であるという話を保護者にしている。
岡村座長	見える形で取り組んでいることが大きな強みである。
星田委員	江南中に赴任して2年目になる。令和3年から5年はコロナで、小中一貫教育の取組が減っていた。昨年度から少しずつ元に戻している。過去に7年間勤務していたので、校区のことはよく分かっている。幼稚園、小学校、中学校が数百mの距離にあり、熊本市内の中でも小中一貫教育を取り組みやすい校区である。産業道路の花植えを小学生と中学1年生でしたり、中学校の生徒会が毎週水曜日に小学校に行って挨拶運動をしたり、環境美化作業を一緒にやったり

	している。中学３年生が小学６年生に中学校の体育大会で踊るデンマーク体操を教えている。２月ごろに小学生６年生が中学校に来てもらって教えている。７月の地域の夏祭りでは、小中学生が一緒になり、ボランティアをしながら地域と関わっている。 乗り入れ授業は、昨年度から数学、音楽、社会に取り組んでいる。本年度は体育、理科も挑戦している。 ６年ぶりに幼小中合同遠足を実施した。今年度は平成中央公園に行った。中学生と小学生と幼稚園生が手をつないで行く。幼稚園の先生からは、最初と最後で中学生３年生の表情が変わったという話をいただいた。本校区の強みである。 校区内の校長同士でやり取りして、校内研修の時間を伝え合い、校長から案内があった場合は、積極的に参加するように声掛けをしている。校長同士が親しくなり、職員も含めて懇親会をし、生徒指導面や授業など何でも言い合える関係をつくっていった。先生方のつながりがないと、小中一貫教育はできないと考えている。 昨年度、幼小中連携の日の話し合いの中で課題が出され、「自己決定ができるこどもの育成をしよう」というテーマを決めた。中学生になると、自分の進路を決めなければならない。中学生になってから決めるのでは遅いので、小学校の時から「あなただったらどうする？」というような、自己決定の場を与えながら育てていかないと、中学生になったときに、進路を決められない。 本年度から保育園との連携も始めた。校長・園長が連絡を取れるようにしており、雨天時の遅延登校などの連絡を取り合っている。
岡村座長	昨年は芳野中の話を聞きながら、Ａグループは保護者や地域の意識が高いと感じた。今後も取組を先に進めていただきたい。その中でＣグループでもいかせることがあれば広がっていった欲しい。一番連携がとりやすいグループなので、どんどんつながりを作っていった欲しい。合同遠足は話を聞くだけでわくわくする。中学生にも育ちがあるだろう。
小山委員	小中一貫教育のよさは、課題を共有できること。課題の共通点を見つけ、共通実践できること。本校区は小島小と中島小の２小から１つの中学校へ進学する。徳・知・体・特別支援の４つの部会に分かれて、課題を共有し、共通実践をしている。お互いに顔を合わせてお互いを知ることで垣根がなくなると感じている。 課題は小学校の４５分授業と中学校の５０分授業のずれである。小学校から中学校に行こうとしても、中学校の１時間の授業に対して小学校の２時間の授業の枠が必要になる。
岡村座長	江南中学校ではどうされているか。
星田委員	乗り入れ授業の時には、小学校の業間の時間で調整している。中学校から３、４時間目に行けるようにしている。午後の５時間目の開始を合わせるなどの調整もしている。
小山委員	学校間の距離が近いのはとても良い。本校区は距離があり移動に時間がかかる。乗り入れ授業について、年間を通して実施しているのか、教科によっては単元だけなのかを教えて欲しい。
星田委員	単元をいくつか選んで実施している。３学期がいい、１１月がいい、音楽な

岡村座長	ら卒業式前がいいなど、単元ごとで行っている。職員には、小学校免許を持っている先生はT1ができると伝えている。常時行くというのはどんなに近くても難しい。中学校は時数が多い職員と少ない職員がいるので、時数が少ない職員や担任をもっていない職員が行くようにしている。 全体の時間割を動かすのは大変であるが、1つの案として、小学校の業間の時間を使って授業開始時間を合わせる、午後の授業開始の時間を合わせるという方法を聞かせていただいた。最近、小学校によっては、曜日によって日課が違ってくることもあるが、こどもたちはある程度対応している。乗り入れ授業に関しては、無理をして職員の負担が大きくなると教育効果は落ちるので、できる範囲でということが大事である。課題の共有という話は昨年度の懇談会では出なかった。小学校と中学校で類似の課題を共有しておくという視点は面白い。
坂本準委員	4月に赴任したので、4か月の感想を述べる。まずは教員同士の交流が組織的に行われていると感じている。月に1回の校長会や、小中学校合同会議を月に1回行っている。天明の小中学校の研究の取組や年間スケジュール、小中一貫教育の目標や取組の概要などを共有している。 昨年度乗り入れ授業も美術や理科で行われていたと聞いている。入学式の時に「〇〇先生がいたよ」という会話が飛び交っていた。乗り入れ授業をすると、新入生の安心感が生まれる。不登校の生徒が少ない現状もある。小学校で集団宿泊教室等を合同で取り組んでいるので、中一ギャップや不登校の生徒が少ないのかもしれない。本日の午前中は、校区内の4つの保育園に全小中学校の職員が行き、保小中の連携をした。園児の様子を把握したり、保育園と情報交換を行ったりしている。 課題は、乗り入れ授業をするときに距離があり、中緑小や川口小は遠く、旅費関係を心配している。通常は校区での勤務は郊外勤務にしているが、頻繁に乗り入れ授業を行うとなると、旅費確保が厳しい。本年度は、美術・理科・音楽で乗り入れ授業を考えているが、旅費の問題がある。
岡村座長	天明は加配教員がおり、昨年度から様々な実践を聞いている。Bグループで小学校が4校もあるので、中学校の教員一人で全ての小学校に行くことには難しさがある。人員配置や旅費の問題もある。乗り入れ授業は、こどもたちには効果が大きいことは明らかだが、距離や旅費の問題は必ずついてくる。乗り入れ授業に関しては、どこまでが適度な部分なのかを考えていく必要がある。旅費に関しては、教育委員会としてどこまで可能か検討していただきたい。
岡村座長	合同会議は基本ZOOMなのか。
坂本準委員	基本的にはZOOMを使用している。先日の幼小中連携の日は、天明中に集まり、授業参観と部会をした。先週の会議ではZOOMを使って、育成したい4つの資質・能力のどれを重点的に育てるかという会議をした。生徒同士の交流については、昨年度まで天明校区におられた横山教育審議員から説明していただきたい。
横山教育審議員	小学校間の連携として、水俣の学習や集団宿泊へ一緒のバスで行っている。加配の教員がいたので、小学校間で国語のこの単元はZOOMでトークルームをする、学校保健委員会を合同で行うなどの調整をしていただいていた。こどもたちはお互いに全く知らない人というイメージはなくなっている。小中間の連携になると、小学校が4つあり、中学校まで歩いて行けない学校もあるので

	難しいが、特別支援学級は小中での合同行事をしている。 月1回の小中合同会議をすると位置付けたのが良かった。その中でどんなこともにしたいのかということをも4つの資質・能力としてボトムアップで決めた。小中の学校教育目標を統一し、アンケートを実施して、自分たちの学校によさや課題を意識できるようにした。
岡村座長	ZOOM会議は一人1画面か。
坂本準委員	前は個人で入り、ブレイクアウトルームで話し合いをした。4月と5月は学校ごとで参加をしている。
川上委員	桜木小はCグループになる。桜木小、桜木東小、秋津小（一部の児童）が桜木中へ進学する。秋津小の多くは東野中に進学する。幼小中連携教育のよさといえば、小1で支援が必要なお子さんがいらっしゃったとき、小学校から園に相談したり、保護者が園に相談された時に小学校まで含めて対応をしたりして、お子さんが落ち着いた学校生活を送れるようになったケースがある。また、6年生の特別支援学校のお子さんに対して、中学校の先生方からいつでも中学校へ見学に来ていいと言っている。夏休みに見学に行くことが多いが、要望があればそれより早くでも対応していただいている。小中で一緒に見るお子さんだという意識が出てきている。 小学校2、3年生で校区探検をするときに、中学校の探検もさせていただいている。中学校の花いっぱい運動で、小学校の緑委員会に持ってきてもらい、交流をしている。 Cグループでは、乗り入れ授業は難しい。小学校の高学年をメインに交換授業をする程度である。昨年度は、幼小中連絡カリキュラムを熊本市の目標に沿ったものにしようと、4校の教務部会や校長会で修正・確認をして、今年度6月の幼小中連携の日に周知した。ただ、カリキュラムに幼稚園、保育園が入っていないので、本年度は教務部が原案を作り、校区内の幼稚園と保育園に持って行き、意見を聞きながらカリキュラムの見直しをしている。 1月にある幼小中連携の日で、秋津小学校に桜木中校区と東野中校区の教員が集まり、授業を見て、部会をする予定である。桜木中校区の部会と東野中校区の部会があるが、生徒指導部会と特別支援部会については合同でやってみようと思っている。無理せず、今やっていることを少し広げている。桜木中校区、東野中校区の校長先生方も賛同していただいているので、連携がとれつつあると感じている。
岡村座長	連携カリキュラムの見直しは中学校区ごとに行っているが、今後の動きが期待される。Cグループは多くの校区があり、課題も多いが、その中でも様々な形の連携が行われつつある。先生方や保護者の感触はどのような感じか。
川上委員	保護者には見えない部分が多いので難しいようだ。先生方も一同に会するのは年に2回か3回なので難しい部分がある。校長、教頭、教務、生徒指導、特別支援関係は頻繁にやりとりをしているので、その連携から進めるようにしている。
岡村座長	できるところからでよい。Cグループの貴重な情報を今後もいただきたい。
坂本正二委員	昨年度、校長先生方で乗り入れ授業をしようという話になり、T1を小学校の先生、T2を中学校の先生ということでスタートした。3つの小学校の中間

	地点に中学校があるので、中学校から行くと提案した。教科については、小学校から要望に合わせる形で、1つの小学校は図工と音楽、残り2つの小学校は中学校の生活についての授業をして欲しいということだった。小学校と中学校の兼務発令に関しては、負担が一つ増えると感じている先生もいる。中学校の立場だとT1だと負担が大きい、T2ということで負担が軽減される。乗り入れ授業をした先生からは、「小学校のこどもたちは、授業に対する反応が良くて楽しかった。」という感想を聞いた。生活についての学活の授業は実現できなかった。この場合は、小学校の先生がT1をするのは難しかったためと考えられる。音楽と美術に関しては、職員の専門性が発揮される部分なので、とりかかりとしては良かったと感じている。 今年度、これを広げていくかはまだ決まっていない。課題としては、中一ギャップだけが不登校の要因ではなくなってきたと感じている。小中それぞれが中1ギャップを解消しようとしているので改善されてきている。9年間のカリキュラムの中で、植木地区としては学力の課題もあるので、そういうところにつなげられないかと思っている。
新川委員	託麻東小はAグループになる。8年前から名城大学の曾山先生（現在は、「かわりプログラム Simple」代表）にご指導いただきながら、グループアプローチという取組をしている。取組を始めてしばらくすると、中学校の先生から「最近の入学生は落ち着いているが、何か取組をしているのか。」と聞かれ、次第に中学校にもそのよさが伝わり、広がっていったと聞いている。二岡中は6年前から実施している。6月の幼小中連携の日にも曾山先生に来ていただいた。幼稚園と保育園の先生方にも案内を出した。1、2時間目は曾山先生に中学校のグループアプローチの授業を見ていただき、3時間目からは小学校を見ていただいた。6校時は曾山先生から講話をいただき、改めてグループアプローチのポイントを指導していただいた。 逆に中学校で取り組んでいて、小学校でも取り組むことになったのが、無言掃除である。教職員の交流では、実際に活動の中で、お互いを知りあうことが大切だと思っている。 人数が多く、児童が1330人で職員が77人いる。乗り入れ授業をしようとしても、1つの学年に6～7クラスあるので、どのようにすればよいのかという課題がある。今後、新校舎が建つ予定で、中学校と小学校をつなげた校舎ができる。ハード面に合わせて小中の職員の交流も盛んになるとよい。3月まで吉松小にいたが、植木北中の先生が生活面での乗り入れ授業をしてくださったことで、小学生は喜び、入学への不安も軽減された。人数的に乗り入れがしやすい規模は、とても良いと感じている。
岡村座長	グループアプローチとは具体的にどのようなものか。
新川委員	託東タイムという名前で取り組んでいる。一例をあげれば、0～5を指で表すアドジャンをして、合計の数によってお題が決まる。それにあてはまることをしゃべるが、大切なのは相手の話を聞くこと。単純なことだが、それが心のつながりを生み、授業にもいかされている。8年間の積み重ねの成果だと感じている。
岡村座長	グループエンカウンターやSSTにあたると思うが、いろいろな形で実践することは良い。規模が大きいと乗り入れ授業も難しいが、Aグループということで、地域とも一体となり、できるところを進めていって欲しい。グループアプローチという共通の取組があると、小中の一体感が出てくる。大規模校の中で

	のアプローチとして、1つヒントになるのではないかな。
中釜委員	小中一貫教育に関する調査結果の中で、「学校の先生たちは、小中学校間の連携をしていると思いますか」という保護者への質問があったが、「わからない」という回答の割合が多かった。6月の幼小中連携の日についてもよくわかってなかったのも、どういう形で保護者に伝えるかという部分は考えさせられた。こどもたちからこんなことがあったという話ができるといいが、それができない家庭もあるかと思うので、保護者自身も知ろうという姿勢が大切である。こどもに紙だけやっても紙が保護者へ渡されないこともあるかもしれない。すぐ一読もあるが、中身まで読まないこともある。保護者や地域へこれらのよい活動を伝えていけたらよい。
岡村座長	リアルなこととして、草の根活動から始めていかなければならない。何か1つやれば保護者全員が見てくれるわけではない。せっかくよい取組をしても発信をしていなければ伝わらないこともあるので、その辺が今年度の大きなテーマになってくる。
藤枝委員	恥ずかしながら、このような取り組みを知らなかった。東町中はCグループなので、乗り入れ授業等は難しいと想像できる。一生懸命先生たちの中で色々な取組をされているのが分かった。もしよければ、保護者も巻き込んでもらえればと思っている。うちの学校は先生方と保護者の仲がよいと思っている。現在、PTAの会員も半数以下になっていが、青少協などにご協力いただくこともあり、地域ぐるみで動いている部分もある。小中の運動場が隣接しているので、前校長は「運動会で中学校の足が速い生徒を連れてきて小学生の前で走らせてみたい。」という話もされていた。このようなことをやっていけば、Cグループでも連携が少しずつ進んでいくのではないかなと思う。
岡村座長	1つのテーマとして、いかに地域や保護者と一緒に小中一貫教育をやっていくかということがある。したがって、保護者や地域の方からの意見が重要になってくる。どうやって保護者や地域を巻き込んでいくか、そして、小中一貫教育の取組をどう発信していくか。 学校はこれから大きな形で地域のコミュニティの中心を担っていく時代になりつつあると感じている。保護者、PTA等と連携を取りながら、小中一貫教育、幼小中連携を通して地域全体でこどもたちを育てていくという形をつくって欲しい。小学校の運動会で中学生が走るだけで小学生は驚く。色々な形で小学生が中学生の頑張る姿を見る。中学生が小学生の頑張っている姿を応援する。そして、こどもたちの連携も深まっていく。 意見交換終了ということで、事務局へお返しする。
横山教育審議員	各校からの報告から改めて小中一貫教育のよさが分かったと同時に色々な可能性が見えた。保護者や地域にどのように発信していき、どのように一体になって取り組んでいくのかという部分がこれからの課題と実感させられた。次回は9月30日である。みんながよさを実感できるにはどのようにしていけばよいかなという話が話題になると思うので、それに向けて準備をお願いしたい。

6 事務連絡

7 閉会